

投稿原稿執筆要領

投稿規程に定める投稿原稿の執筆要領を以下に定める。なお、投稿原稿以外(書評など)の場合も、以下に準じるが、講演原稿などは準拠しなくてもよい。

1. 原稿の種類

原稿は次のいずれかとする。

- 1.1 原著論文
- 1.2 研究ノート

2. 使用言語

日本語または英語とする。

3. 原稿の長さ

原則として以下の範囲内とする。なお、文字数には図表・グラフ・写真・参考文献・注釈・参考文献を含む。

- 3.1 原著論文: 和文 20,000 字 英文 8,000 語
- 3.2 研究ノート: 和文 10,000 字 英文 4,000 語
- 3.3 書評: 和文 10,000 字 英文 4,000 語

4. 要旨とキーワード

原著論文には、和文要約(500字程度)または英文(250語)を付け、各要約の末尾に3~5語のキーワードを明記すること。

5. 原稿の様式

- 5.1 原著論文は、表題(日本語および英語)・要旨・キーワード・本文・注・参考文献、研究ノートは表題・本文・注・参考文献の順で記載のこと。
- 5.2 注は脚注とはせず、本文中に通し番号を付し、本文の末尾にまとめて示すこと。
- 5.3 参考文献は本文中に引用したもののみ記載のこと。
- 5.4 図表・グラフ・写真・動画は、キャプションおよび説明を含め、本文とは別ファイル(Excel、Wordなど)で提出のこと。また、動画は該当する静止画にリンクを付与のこと。
- 5.5 フォントはUD デジタル教科書体 NK-R(日本語)および、Times New Roman(英語)を使用のこと。
- 5.6 見出し記号は、「1.」「1.1.」の順に記すこと。

6. 例文表記

6.1 例文と本文の間は1行空ける。例文には丸括弧で通し番号を付け、字下げせずに左揃えとする。

6.2 手話の例文表記は、手話のグロスおよびそれに対する日本語文を記す。日本語表記のグロスは / / で表記し、英語表記の手話のグロスは大文字で表記のこと。

<例>

●手話言語の例文表記(日本語表記)

頭: hn hn
手指: /男/ /自転車をこぐ/ IX-3 /女/ /自転車/ /自転車をこぐ/

男の子が自転車をこいでいると、向こうから女の子が自転車に乗ってやってきました。

●手話言語の例文表記(英語表記)

Head: hn
Hand: MAN CLIMB-LADDER UP _____ PEAR PICK-PEAR START

“The man climbed the ladder and started to pick pears.”

6.3 音声言語の例文表記、その他、グロスについては The Leipzig Glossing Rules (<https://www.eva.mpg.de/lingua/pdf/Glossing-Rules.pdf>) を参照のこと。

7. 参考文献

7.1 第一著者のアルファベット順で、和文文献と外国語文献を分けることなく配列する。

7.2 同一の著者による文献は、発表年の順に並べる。

7.3 外国語文献は全て、APA (American Psychological Association, アメリカ心理学会) マニュアル (<https://apastyle.apa.org/style-grammar-guidelines/references/examples>) に規定されている方式に準ずる方法を採用すること。

<例>

●論文

鳥越隆士・前川和美(2017)「難聴児は日本手話指導場面でどのように手話を学んでいるのか? 社会・文化的分析」『手話学研究』26:129-145.

Tang, G., Brentari, D., Gonzalez, C., & Sze, F. (2010). Crosslinguistic variation in prosodic cues. In: D. Brentari. (Ed.) *Sign Languages, 519-542*. Cambridge University Press.

●単行本

松岡和美(2015)『日本手話で学ぶ手話言語学の基礎』くろしお出版.

Sandler, W., & Lillo-Martin, D.C. (2006). *Language and linguistic universals*. Cambridge University Press.

●研究発表

矢野羽衣子・松岡和美・平英司(2014)「愛知県大島のビレッジサイン(手話方言)における数と時の表現」
日本言語学会第149回大会ポスター発表.2014年11月15日.

●ウェブサイト

市田泰弘「手話文法研究室」<http://slling.net/wp/>(2023年10月12日アクセス).

7.4 本文および注における参考文献は以下の例のように示す。

●鳥越・前川(2017)は…、鳥越・前川(2017)によると…

●鳥越・前川(2017:130)は「……」と述べている。

8. その他

原稿の執筆および投稿に関しては、必ず手話言語研究センターのウェブサイト(kwansei.ac.jp/c_shuwa/)より、最新版の投稿規程および執筆要領を確認のこと。

附則

本要領は2023年11月1日から施行する。

本要領は2024年3月11日から改正施行する。